

情報先自

5枚

本店レク 議事メモ

官邸班 ← フォース対応チーム
NISA班

日時：平成23年5月10日（火）11:00～12:10

場所：東京電力本店3階AB会議室

先方：記者約35名（カメラ3台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配付資料

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【5月10日午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果（5/8現在）
- ・ BWRの圧力容器断面図
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋大物搬入口のガラ撤去について

よりプラント状況、配付資料の説明を実施。

質疑

Q. 1号機の原子炉建屋内の現場作業の状況を教えていただきたい。計器の校正作業の進捗状況、代替冷却設備の現場調査の場所など詳細を教えていただきたい。

A. 本日は2チームが入城している。1チームは計器校正のチームであり、東電の社員が2名、協力企業作業員が7名で入城している。9時40分頃から計器校正の作業を実施している。正確な時刻と退城予定時刻は把握していない。校正の後、正確な水位の把握ができるのは明日になる予定。もう1チームは代替冷却設備のチームである。現場調査の場所として、1階の取出し側と2階の炉心スプレイ系の戻し側の調査に入っている。人数の詳細については午後の会見で発表できると思う。

Q. 1号機R/B内における遮蔽の作業状況はどうか。

A. 圧力容器の水位計周辺に鉛毛マットを5枚、格納容器の水位計の周辺に5枚を敷いた。1枚あたり、幅が30cm、高さが1m、厚さが3mmの仕様である。遮へい効果としては圧力容器の水位計周辺では7～8mSv/hが6～7mSv/hの1msVほど低下した。格納容器の水位計の周辺も10～12mSV/hが9～11mSv/hの1msV/hほど低下した。

Q. 格納容器の水位計の校正も本日の作業となるのか。

A. 明日、実施予定。

Q. トレンチの溜まり水とT/Bの溜まり水の同時移送はあり得るのか。

A. あり得る。

Q. プロセス主建屋と高温消却炉建屋は繋がっているのか。

A. 本来繋がっているが、水が互いに流れ込まないように止水工事の際、セパレートしている。

Q. 3号機T/Bからの移送用ホースは何本設置予定か。また、移送開始時期は。

A. 設置工事は1～2日はかかるのではないと思う。移送開始は12日の午後頃と予定している。ホースの本数については、2号機トレンチから3本、3号機トレンチから2本、3号T/Bからは2本。

Q. 1号機の代替冷却装置の設置場所や稼働時期はいつ頃を予定しているのか。

A. 冷却装置については格納容器内の水を可燃性ガス系から引き出し、炉心スプレイ系から戻す予定。

稼働時期は正式に決まっていないが、今月中には2次系の設置までは終了する予定である。一次系の原子炉格納容器から水を取り出す工事は6月中旬頃まではかかるのではないかと考えている。いずれにせよ時期的なイメージは正式には申し上げられる段階ではない。

Q. 2号機の移送はいつ頃終了予定か。

A. 当初 2,500 トン移送後、ポンプを2台に増やすという前提で合計1万トンを26日かけて移送するとの予定であったが、現時点ではポンプを1台のまま移送し続けているので終了時期は遅れている。

集中廃棄物処理施設の止水工事状況や3号機からの移送も踏まえて実施しているので、移送完了時期が遅れても特段問題ではない。

Q. 高温焼却炉建屋施設の容量は

A. 約4,000m³。

Q. 3号機の胴フランジ部の温度が9日の11時に330度を超えているがどのように評価しているのか。

A. 本日朝の測定結果では132℃であった。胴フランジ部の温度は上下する物である。

Q. 胴フランジ部のデータを時系列で教えていただきたい。

A. 後ほど用意させていただく。

Q. 2号機へのヒドラジンの注入量、PH値を教えていただきたい。

4

Q. 中央制御室のデータ収集の進捗状況か。

A. 紙のデータは汚染されて紙を持ち出せないなので、スキャンしているところ。
また、電子データはHDに収集しとりまとめているところ。

Q. 水位計の校正が終わったというのは成功したと言うことで良いか。

A. 作業としては終了し、後は最終的に設定後、データ確認すれば、現在の水位がどの程度か分かってくる。

以上